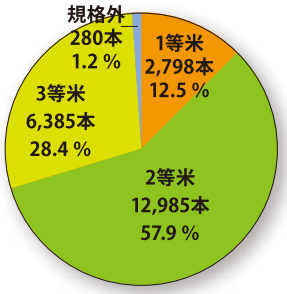
令和4年産米の報告

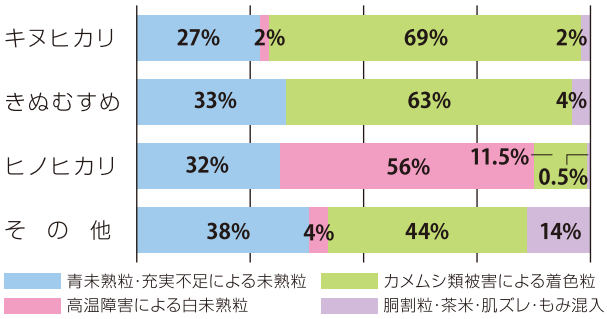
令和4年産米の集荷・買取数量 **22,448袋** **673,440kg** （11月11日現在）

令和４年産米のＪＡ買取分の等級割合は左図の通りです。本年は大きな台風被害やウンカ被害も少なく、収量、品質ともに昨年度より向上しました。等級低下の理由としては、白未熟粒、カメムシ被害粒が目立ちました。来年度に向けて対策しましょう。

検査数量中の1等、2等、3等、規格外米の割合



2等米以下に格付けされた理由の割合



白未熟粒の対策

白未熟粒とは…穂が実る時期に高温が続くと登熟が不十分になり、粒の中に隙間ができ、光が乱反射して白く見えるものです。

乳白粒

背白粒

土づくりをしましょう

①深く耕す…地表面から15～20㎝ほど耕すと、根の伸びるスペースが増えてしっかりした稲を作れます。すき床を壊さないよう、昨年よりプラス3㎝といったように徐々に深くしましょう。

②ケイ酸資材を補給する…ケイ酸は稲にとって大切な養分です。光合成の効率をよくする効果や、稲の温度を低くさせる「クーラー効果」があるため、毎年補いましょう。

ケイ酸入り土壌改良質材の例

とれ太郎
3～4月頃に60～80kg/1反(10a)散布しすき込む。

もみ数を抑えましょう

白未熟粒は、面積当たりのもみ数が多いと発生しやすいです。

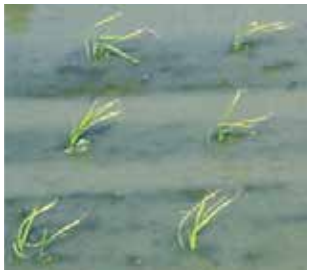
①株間を広げる…白未熟粒の発生が少ない栽植密度は、1㎡当たり約15～18株（坪当たり50～60株）です。田植え機の設定を見直し、株間を約20～22㎝に広げましょう。

植え付け株間と栽植密度の関係

株間(㎝)	栽植密度 1㎡あたり(株)	栽植密度 坪あたり(株)
22	15.2	50.0
21	15.9	52.5
20	16.7	55.1
19	17.5	58.0
18	18.5	61.2

※田植え機条間30㎝の場合の計算

②植え付け本数を減らす…植え付け本数は、2～3本にしましょう。


2～3本植えした様子
植え付け直後は少なく見えますが、暖かくなるにつれて旺盛に育ちます。

カメムシの対策

耕種的防除

草刈りは出穂2週間前までに行い、畦畔のカメムシの生息地をなくしましょう。

薬剤防除

出穂5～7日後に1回目の農薬散布をします。10～14日後に2回目を追加散布しましょう。ＪＡでは農業用ドローンによる農薬散布の受託作業をしていますので、ぜひご利用ください。

農薬名	散布量	使用時期/使用回数	備考
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫7日前まで/3回以内	ひしゃくを使い、田んぼに入らなくても散布できる。
スタークル粒剤・粒剤DL	3kg/10a		粉剤は飛散するため、散布時は風の強さを確認する。住宅が密集している地域では、使わないようにする。
トレボン粒剤DL	3～4kg/10a		

薬剤防除のポイント

- 天気予報をチェックして、台風や大雨前の散布は避けましょう。
- 粒剤や豆つぶ剤は、水深3～5㎝の湛水状態で散布しましょう。散布後1週間は入水、落水せず、水口や水尻をしっかり止めましょう。
- 豆つぶ剤は、水田内に雑草があると十分拡散できないことがあります。使用前に除草剤を使用したり抜いたりして、雑草対策をしましょう。